

◆五二 一生成仏抄 じようぶつ

けんちよう
建長 七年 三十四歳御作 ときじようにん
与富木常忍

383P

夫れ無始の生死を留めて此の度決定して無上菩提を証せんと

思はばすべからく衆生本有の妙理を觀ずべし、衆生本有の

妙理とは 妙法蓮華經是なり故に妙法蓮華經と唱へたてまつ

れば衆生本有の妙理を觀ずるにてあるなり、文理真正の經王な

れば文字即実相なり実相即妙法なり唯所詮一心法界の旨を

説き顯すを妙法と名く故に此の經を諸仏の智慧とは云うなり、

一心法界の旨とは十界三千の依正色心 非情草木 虚空刹土

いづれも除かず ちりも残らず一念の心に収めて此の一念の心

法界ほっかいに○満へんまんするを指して万法とは云うなり、此の理を覚知かくちす

るを一心法界いっしんほっかいとも云うなるべし、但し妙法蓮華經ただ みようほうれんげきようと唱なへ持たもつ

と云うとも若もし己心こしんの外ほかに法ありと思はば全く妙法みようほうにあらず

○法そほうなり、○法そほうは今經こんきようにあらず今經こんきようにあらずほうべん方便なり

権門ごんもんなり、方便ほうべん権門ごんもんの教きょうならば成仏じようぶつの直道じきどうにあらず成仏じようぶつの

直道じきどうにあらずこうこうれば多生曠劫しゆぎようの修行へを経て成仏じようぶつすべきにあらず

る故ゆえに一生じようぶつ成仏じようぶつ叶かないがたし、故ゆえに妙法みようほうと唱なへ蓮華れんげと読よまん時とき

は我が一念いちねんを指して妙法蓮華經みようほうれんげきようと名なくるぞと深く信心しんじんを發おこす

べきなり。

都すべて一代八万しやうきやうさんぜじつぱうの聖教しよぶつ三世十方ぼさつの諸仏しよぶつ菩薩ぼさつも我が心の外ほかに

有ありとはゆめゆめ思しふべからず、然しかれば仏教ぶつぎようを習しふといへども

しんしょう

心性を觀ぜざれば全く生死を離るる事なきなり、若し心外に道

まんぎようばんぜん

を求めて万行万善を修せんは譬えば貧窮の人日夜に隣の財を

かぞ

計へたれども半錢の得分もなきが如し、然れば天台の釈の中に

も

は若し心を觀ぜざれば重罪滅せずとて若し心を觀ぜざれば無量

くぎよう

の苦行となると判ぜり、故にかくの如きの人をば仏法を學して

げどう

はずか

外道となると恥しめられたり、爰を以て止觀には雖學佛教

げんどうげけん

しゃく

還同外見と釈せり、然る間 仏の名を唱へ經卷をよみ華をちら

みな

いちねん

おさ

くどくぜんこん

し香をひねるまでも皆我が一念に納めたる功德善根なりと信心

よ

じようみようきよう

しよぶつ

を取るべきなり、之に依つて 淨名經 の中には諸仏の解脱を

しゅじよう

しんぎよう

しゅじようそくほだい

しろうじそくねはん

あか

衆生の心行に求めば衆生即菩提なり生死即涅槃なりと明せ

しゅじよう

り、又衆生の心けがるれば土もけがれ心清ければ土も清しとて

じようど

浄土と云ひ穢土と云うも土に二の隔なし只我等が心の善悪によ

しゅじよう

ると見えたり、衆生と云うも仏と云うも亦此くの如し迷う時は

しゅじよう

なつ

衆生と名け悟る時をば仏と名けたり、譬えば閻鏡も磨きぬれば

たと

あんきよう

ごと

ただ

いちねんむみよう

めいしん

これ

玉と見ゆるが如し、只今も一念無明の迷心は磨かざる鏡なり是を

ほつしようにしんによ

みようきよう

磨かば必ず法性真如の明鏡と成るべし、深く信心を發して

ちようほ

おこた

いかよう

しんじん

おこ

日夜朝暮に又懈らず磨くべし何様にしてか磨くべき只南無

みようほうれんげきよう

ただなむ

妙法蓮華經と唱へたてまつるを是をみかくとは云うなり。

そもそも

抑妙とは何と云う心ぞや只我が一念の心不思議なる處を

ただ

いちねん

ふしぎ

ところ

ふしぎ

およ

ことば

およ

妙とは云うなり不思議とは心も及ばず語も及ばずと云う事なり、

しか

然ればすなはち起るところの一念の心を尋ね見れば有りと云

おこ

いちねん

たず

いろ

かたち

はんとすれば色も質もなし又無しと云はんとすれば様様に心

さまざな

起る有おこと思ふべきに非ず無ありと思ふべきにも非ず、有無あらの二の語ことば

も及およばず有無うむの二の心も及およばず有無うむに非ずして而しかも有無うむに〇して
ちゆうどういちじつ みようたい

中道 一実の妙体ふしぎにして不思議なるを妙とは名なづくるなり、此の

妙なる心を名けて法とも云うなり、此の法門ほうもんの不思議ふしぎをあらは

すに譬たとえを事法じほうにかたどりて蓮華れんげと名く、一心いっしんを妙と知りぬれば

亦また転じて余心よしんをも妙法みようほうと知る処ところを妙経みようきようとは云うなり、然しかれ

ばすなはち善悪ぜんあくに付いて起り起る処おこの念心ねんしんの当体とうたいを指して是これ

妙法みようほうの体と説き宣のべたる経王じようぶつなれば成仏じきどうの直道とは云うなり、

此の旨むねを深く信じて妙法蓮華経みようほうれんげきようと唱へば一生成仏うたがい更に疑うたがいあ

るべからず、故ゆえに経文きようもんには「我が滅度めつどの後に於ておい 応まさに斯この経

を受持じゆじすべし是この人仏道ぶつどうに於て決かい定じようして疑うたがい有ある事無ことなけん」と

のべたり、ゆめゆめふしん 努努不審をなすべからず あなかしこあなかしこ 穴賢穴賢、一生成仏じょうぶつの
しんじん 南無妙法蓮華經 なむ 南無妙法蓮華經。

にちれん 日蓮

かおう 花押